

【プレゼンテーション資料】

2009年度第1四半期 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2009年8月11日

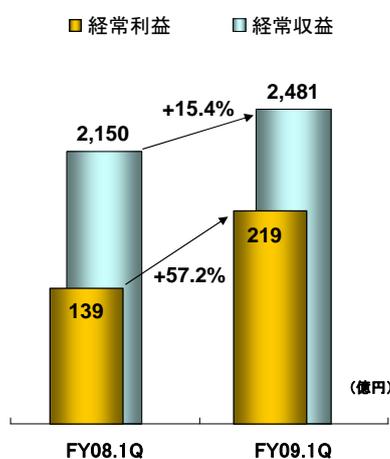
表紙

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

免責事項

連結業績ハイライト



(億円)		FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比	
生命保険事業	経常収益	1,909	2,232	+323	+16.9%
	経常利益	123	207	+83	+67.5%
損害保険事業	経常収益	157	174	+17	+11.3%
	経常利益	4	9	+4	+91.5%
銀行事業	経常収益	86	76	▲9	▲11.0%
	経常利益	10	2	▲7	▲75.7%
全社又は消去	経常収益	▲2	▲3	▲0	—
	経常利益	0	0	▲0	▲50.7%
SFHG連結	経常収益	2,150	2,481	+330	+15.4%
	経常利益	139	219	+79	+57.2%
	四半期純利益	78	125	+46	+59.7%

(億円)		08年6月末	09年3月末	09年6月末	前年度末比	
SFHG連結	総資産	51,308	53,136	54,527	+1,390	+2.6%
	純資産	2,374	2,048	2,311	+262	+12.8%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

まずはじめに、ソニーフィナンシャルホールディングスグループの連結業績に関してご報告いたします。

連結経常収益は、前年同期比**15.4%**増加し、**2,481**億円となりました。

各事業の経常収益は、生命保険事業では**16.9%**増加し**2,232**億円、損害保険事業は**11.3%**増加し**174**億円、銀行事業は**11.0%**減少し**76**億円となりました。

次に、連結経常利益は、前年同期比**57.2%**増加し、**219**億円となりました。

各事業の経常利益は、生命保険事業では**67.5%**増加し**207**億円、損害保険事業は**91.5%**増加し**9**億円、銀行事業は**75.7%**減少し**2**億円となりました。

以上の結果、連結四半期純利益は、前年同期比**59.7%**増加し、**125**億円となりました。

連結業績ハイライト

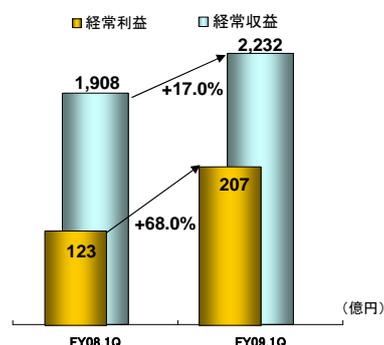


- 生命保険事業では、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および比較的良好な金融市場環境による資産運用収益の増加により、経常収益は増収。経常利益は、収入保険料の増加、変額保険の最低保証に係る責任準備金の戻し入れ、一般勘定資産の運用益増加により、増益。
- 損害保険事業では、主力の自動車保険で保有契約件数が増加したことによる正味収入保険料の増加、および事業費率の低下などにより、経常収益、経常利益ともに増加。
- 銀行事業では、貸出金の順調な増加等により資金運用収支が増加したものの、その他業務収支の減少等により、経常収益、経常利益ともに減少。
- 連結経常収益は、前年同期比15.4%増加の2,481億円。連結経常利益は、前年同期比57.2%増加の219億円。四半期純利益は、前年同期比59.7%増加の125億円。

3

このスライドでは、各事業セグメント毎の業績の要旨をまとめておりますので、後ほどご覧ください。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



【ソニー生命】

PL

- ◆ 前年同期比 増収増益
- ◆ 保有契約高の堅調推移により保険料等収入が増加
- ◆ 資産運用損益は、比較的良好な金融市場環境により、大幅に増加。

BS

- ◆ 四半期純利益増と比較的良好な金融市場環境からその他有価証券評価差額金が増加したため、純資産額は増加。
- ◆ 有価証券は超長期債を中心に増加。

注) 数値は単体ベース。金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)	FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比	
経常収益	1,908	2,232	+323	+17.0%
保険料等収入	1,625	1,659	+33	+2.1%
資産運用収益	275	565	+289	+105.3%
うち利息及び配当金収入	127	157	+29	+23.3%
うち有価証券売却益	29	66	+36	+121.1%
うち特別勘定資産運用益	72	288	+215	+296.4%
経常費用	1,785	2,024	+239	+13.4%
保険金等支払金	609	668	+59	+9.7%
責任準備金等繰入額	894	1,032	+137	+15.4%
資産運用費用	26	62	+35	+133.7%
うち有価証券売却損	0	36	+35	+8,463.0%
うち有価証券評価損	4	-	▲4	▲100.0%
事業費	227	231	+3	+1.5%
経常利益	123	207	+83	+68.0%
四半期純利益	70	118	+47	+68.3%

(億円)	08.6末	09.3末	09.6末	前年度末比	
有価証券残高	24,283	28,196	29,584	+1,387	+4.9%
責任準備金残高	34,626	35,923	36,948	+1,024	+2.9%
純資産額	1,687	1,407	1,588	+180	+12.8%
その他有価証券評価差額金	588	40	172	+132	+330.3%
総資産額	37,245	38,109	39,189	+1,080	+2.8%
特別勘定資産	3,368	2,751	3,129	+378	+13.7%

4

まず、ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および比較的良好な金融市場環境による資産運用収益の増加などにより、経常収益は前年同期比**17.0%増**の、**2,232億円**となりました。

保険料等収入は、保有契約高の増加にともない前年同期比**2.1%増**の**1,659億円**となりました。資産運用収益は、比較的良好な金融市場環境の中での特別勘定資産運用益の増加および残存期間の短い債券を超長期債に入れ替えた際に生じた売却益の増加、超長期債の購入を推進してきたことによる利息及び配当金等収入の増加などにより、**105.3%増**の**565億円**となりました。

一方、資産運用費用は、保有有価証券の売却にあたり、一部売却損を計上したことから、**133.7%増**の**62億円**となりました。その結果、一般勘定と特別勘定の合計の資産運用損益は**102.2%増**の**502億円**となりました。うち、一般勘定資産の資産運用損益は**21.8%増**の**214億円**の利益となりました。

保険金等支払金は**9.7%増**の**668億円**となりました。

事業費は**1.5%増**の**231億円**となりました。

経常利益は、収入保険料の増加と、変額保険の最低保証に係る責任準備金の戻し入れ、一般勘定資産の運用益増加などにより、**68.0%増**の**207億円**となりました。

この結果、四半期純利益は前年同期に比べ**68.3%増加**し**118億円**となりました。

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位:億円)	FY08.1Q	FY09.1Q	増減率	(増減要因)
新契約高	10,042	9,322	▲7.2%	◆ 主に変額保険の減少によるもの。
新契約年換算保険料	162	160	▲1.2%	◆ 変額保険の減少により減少するも、2009年4月発売のがん入院保険の効果により第三分野が増加し減少幅は小幅に留まる。
うち第三分野	35	39	+13.3%	
解約・失効高	4,997	5,432	+8.7%	◆ 変額保険およびそれに付加されている定期性特約の解約増加により増加。
解約・失効率	1.59%	1.67%	+0.08pt	◆ 比較的良好な金融市場環境下、超長期債の入れ替えに伴う残存期間の短い債券の売却益および利息及び配当金等収入の増加により増加。
資産運用損益(一般勘定)	175	214	+21.8%	
基礎利益	93	165	+76.8%	◆ 超長期債への入替えによる利息及び配当金等収入、保険料等収入などの増加に伴い増加。
逆ざや額	61	45	▲26.2%	◆ 利息及び配当金等収入の増加に伴い減少。

	08.6末	09.3末	09.6末	前年同期末(08.6末)比	
				増減額	増減率
保有契約高	318,322	325,176	327,208	+8,886	+2.8%
保有契約年換算保険料	5,360	5,478	5,528	+167	+3.1%
うち第三分野	1,236	1,266	1,283	+47	+3.8%
ソルベンシー・マージン比率	1,685.6%	2,060.5%	2,264.3%	前年度末比 203.8pt上昇	

◆ その他有価証券評価差額金の増加により上昇

*1) 新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料、解約・失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。
 *2) 解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

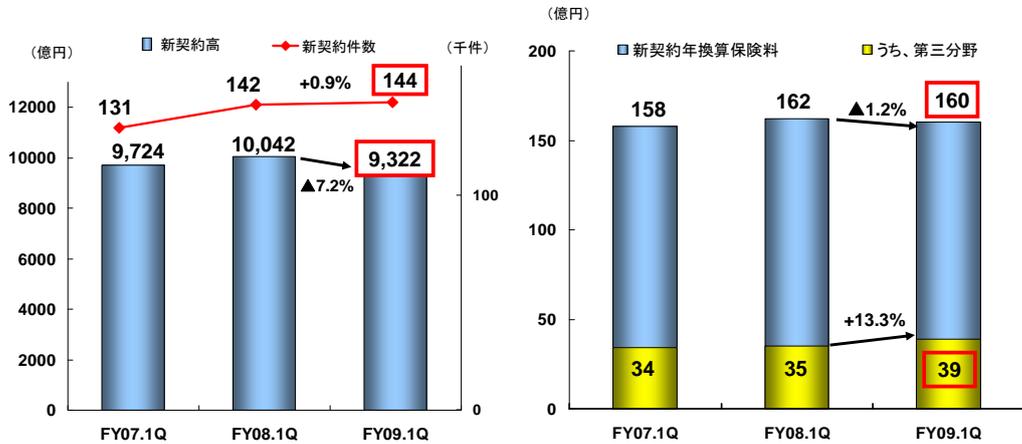
ソニー生命の主要業績指標につきましては、このスライドに記載の通りでございます。

これ以降のスライドで詳細をご説明いたします。

ソニー生命の業績(1)

新契約高(個人保険+個人年金保険)

新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



金額は億円、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

金額は億円未満切捨て

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、主に変額保険の減少により、前年同期に比べ7.2%減少し、9,322億円となりました。

一方、新契約件数はほぼ横ばいの、0.9%増の14万4千件となりました。

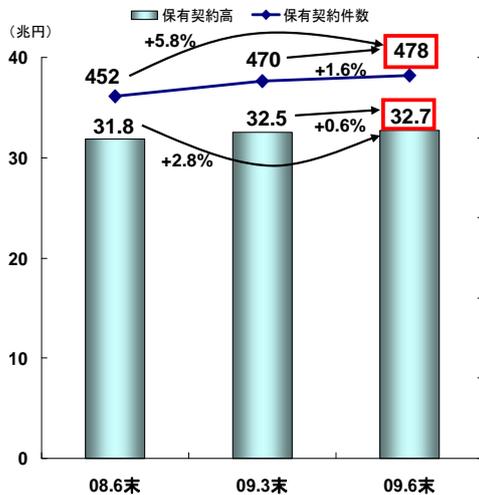
(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は前年同期に比べ1.2%減少の160億円となりました。

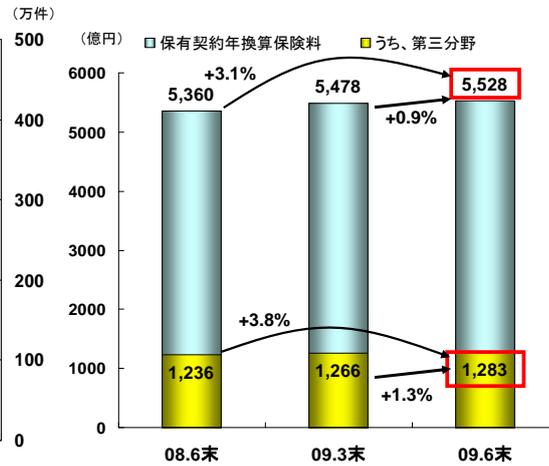
減少幅が小幅に留まったのは、変額保険が減少したものの、今年4月に発売した「がん入院保険」の販売が好調であったことから、第三分野の新契約年換算保険料が、前年同期に比べ13.3%増加し39億円となったためです。

ソニー生命の業績(2)

保有契約高(個人保険+個人年金保険)



保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



金額は千億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

金額は億円未満切捨て

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、前年同期末に比べ**2.8%**、2009年3月末比**0.6%**増加し、**32兆7,208億円**となりました。

保有契約件数は前年同期末に比べ**5.8%**、2009年3月末比**1.6%**増加し、**478万件**となりました。

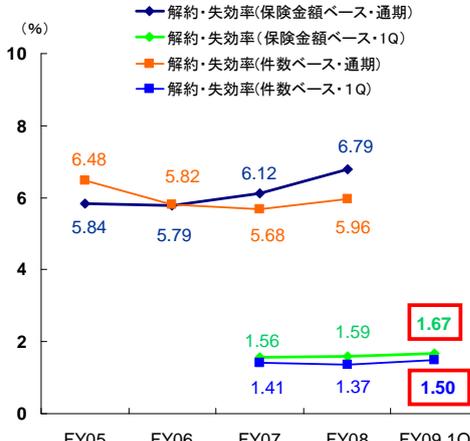
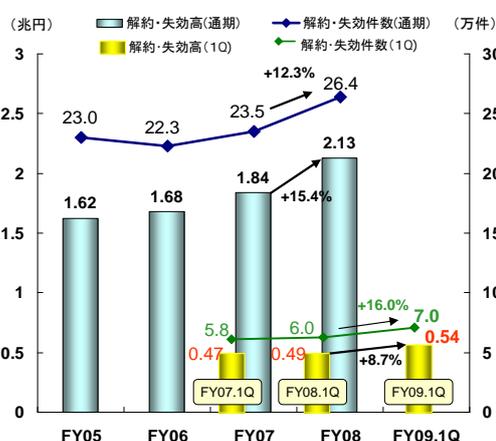
(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、前年同期末に比べ**3.1%**、2009年3月末比**0.9%**増加し、**5,528億円**となり、このうち第三分野は前年同期末に比べ**3.8%**、2009年3月末比**1.3%**増加し**1,283億円**となりました。

ソニー生命の業績(3)

解約・失効高* / 解約・失効件数*
(個人保険+個人年金保険) <通期および1Q>

解約・失効率*(個人保険+個人年金保険)
<通期および1Q>



*解約・失効高、解約・失効件数、解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出した数値です。
金額は百億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て。増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示。

左側のグラフでは、解約・失効高および解約・失効件数の推移を、
右側のグラフでは、解約・失効率の推移を示しております。

(右側のグラフ)

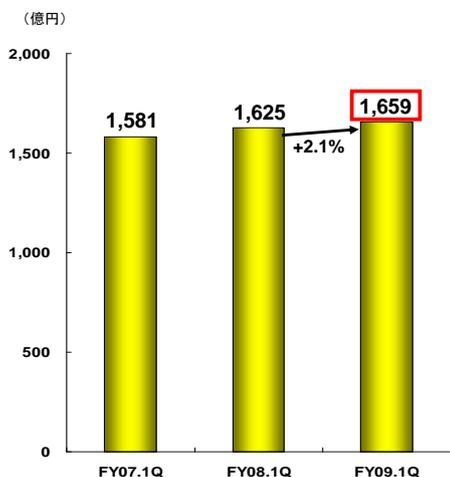
解約・失効率は、保険金額ベースでは前年同期比0.08ポイント上昇し1.67%となりました。

解約・失効率の上昇の主な要因は、変額保険およびそれに付加されている定期性特約の解約が前年度より増加したことです。その背景には景気の悪化があるものと考えております。

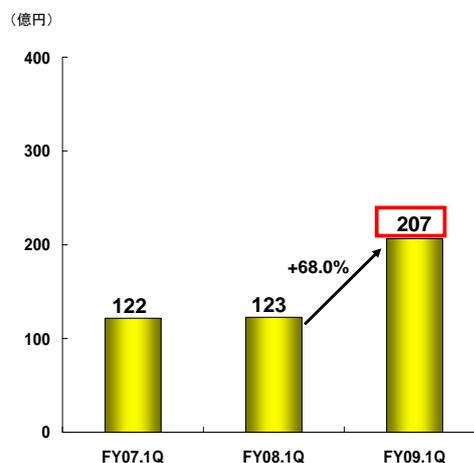
ソニー生命の業績(4)



保険料等収入



経常利益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

9

(左側のグラフ)

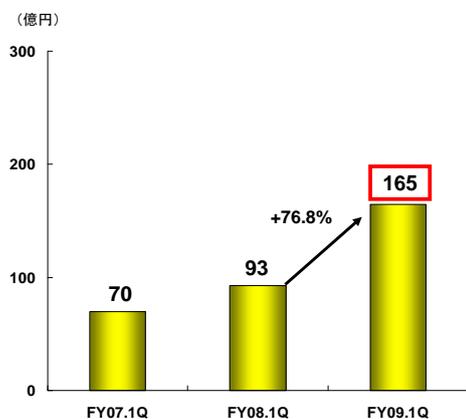
保険料等収入は、保有契約高の順調な増加に伴い、前年同期に比べ2.1%増加し1,659億円となりました。

(右側のグラフ)

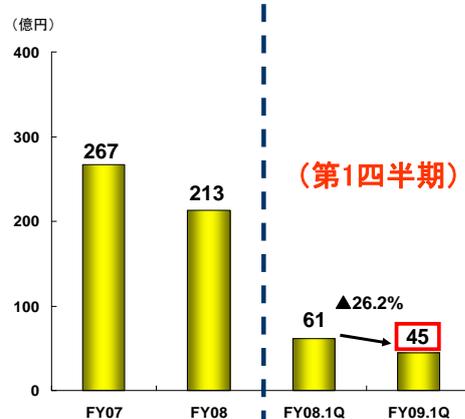
ソニー生命単体の経常利益は、先に申し上げましたとおり、収入保険料の増加、比較的良好な金融市場環境に伴う変額保険の最低保証に係る責任準備金の戻し入れ、一般勘定資産の運用益増加により、68.0%増の207億円となりました。

ソニー生命の業績(5)

基礎利益



逆ざや額



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

基礎利益は、保有契約高の堅調な増加による保険料等収入の増加と、超長期債への投資増大による利息及び配当金等収入の増加などにより、前年同期比76.8%増の165億円となりました。

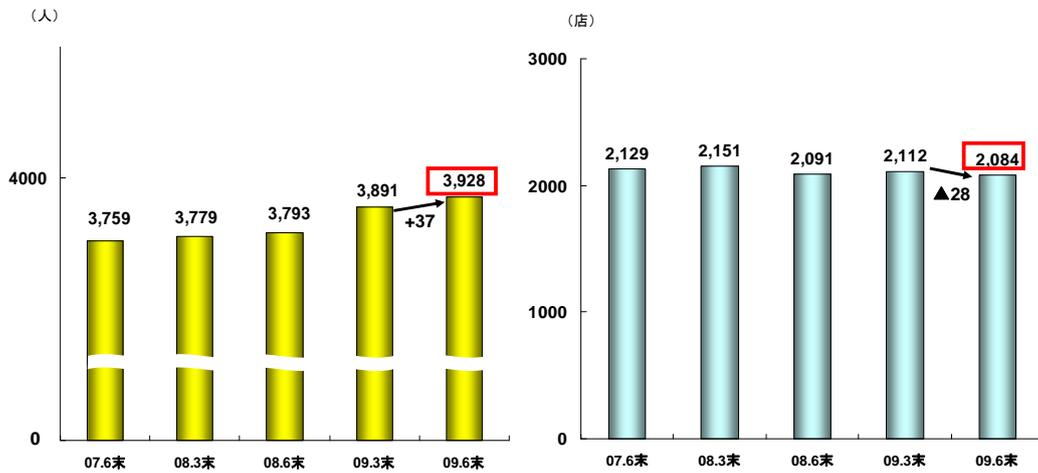
(右側のグラフ)

逆ざや額につきましても、利息及び配当金等収入の増加に伴い、前年同期に比べ26.2%減少し45億円となりました。

ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数

代理店数



11

(左側のグラフ)

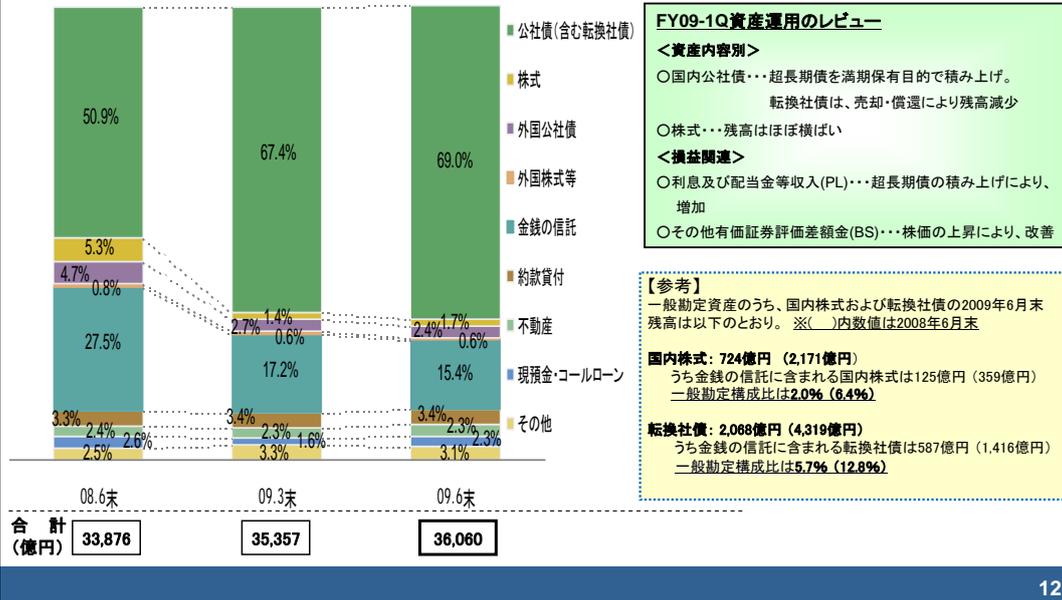
2009年6月末時点でのライフプランナー在籍数は、2009年3月末より37人増加し、3,928人となりました。

(右側のグラフ)

代理店数は、2009年3月末より28店減少し、2,084店となりました。

ソニー生命の業績(7)

一般勘定資産の内訳



前年同期末および前年度末と対比した、当四半期末の一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。

株式および公社債に含まれる転換社債につきましては、金銭の信託に含まれる株式および転換社債と合わせた実質ベースで見ますと、**2009年6月末**における一般勘定資産総額に占める割合は、株式で**2.0%**、転換社債で**5.7%**に減少しております。

2009年度においては、引続き、超長期債への投資を中心に推進してまいります。

なお、ソニー生命のポートフォリオの変化につきましては、補足資料の**30ページ**以降を後ほどご参照ください。

ソニー生命の業績(8)



時価のあるその他有価証券の差損益

(単位:億円)

	08.3末	08.6末	08.9末	08.12末	09.3末	09.6末	09.3末比 増減額
公社債	834	286	190	588	269	342	+72
うち転換社債	92	84	▲195	▲226	▲212	▲80	+131
株式	508	632	241	33	14	115	+101
外国証券	▲95	▲58	▲121	▲61	▲36	▲20	+15
その他証券	30	38	19	▲0	▲5	9	+14
合計	1,278	898	330	560	242	445	+203

金額は億円未満切捨て

※金銭の信託に含まれているものも含む。

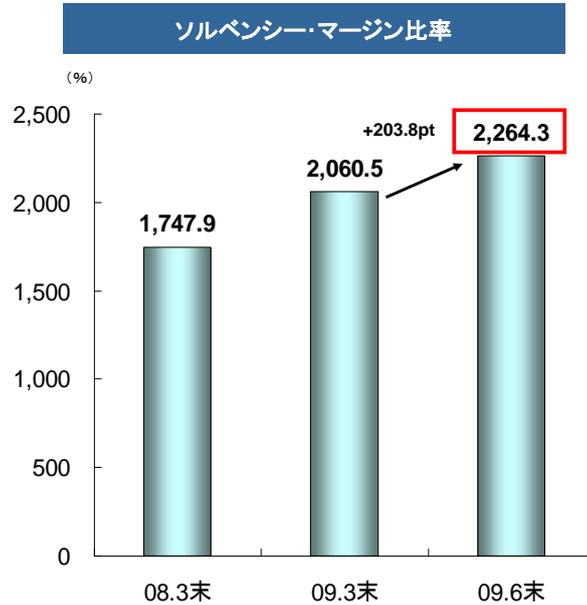
※2009年6月末の公社債342億円には、満期保有目的債券の含み損2億円は含まず。外国証券▲20億円には、満期保有目的債券の含み益26億円は含まず。

※2009年6月末時点で、ソニー生命が保有する転換社債の加重平均価格は92.6円、平均残存期間は4.0年(プット条項を行使した場合の平均残存期間は2.5年)。

13

時価のあるその他有価証券の差損益の状況はご覧のとおりです。

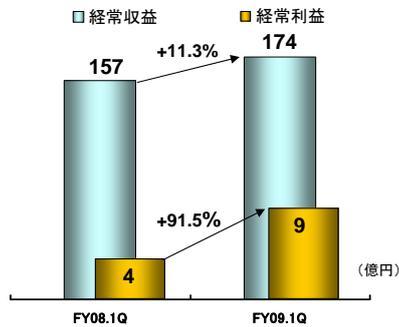
ソニー生命の業績(9)



14

ソルベンシー・マージン比率は、2009年3月末に比べ、203.8ポイント上昇し、2,264.3%となっております。

ソニー損保 業績ハイライト



(億円)	FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比	
経常収益	157	174	+17	+11.3%
保険引受収益	155	173	+17	+11.4%
資産運用収益	1	1	+0	+10.0%
経常費用	152	165	+13	+8.9%
保険引受費用	114	126	+11	+10.2%
資産運用費用	-	0	+0	-
営業費及び一般管理費	37	39	+1	+4.3%
経常利益	4	9	+4	+91.5%
(保険引受利益)	3	7	+4	+142.2%
四半期純利益	2	6	+3	+111.9%

【ソニー損保】

- ◆前年同期比 増収増益
- ◆経常収益は前年同期比11.3%増の174億円。正味収入保険料は、主力の自動車保険で保有契約件数が増加したことにより、前年同期比11.4%増の173億円。
- ◆経常利益は前年同期比91.5%増の9億円。上記増収と事業費率の低下などによる。

(億円)	08.6末	09.3末	09.6末	前年度末比	
責任準備金残高	455	507	538	+30	+6.0%
純資産額	156	136	144	+7	+5.5%
その他有価証券評価差額金	▲1	▲1	▲0	+1	-
総資産額	814	866	901	+34	+4.0%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

15

ソニー損保の業績ハイライトについてご説明します。

経常収益は、前年同期に比べ**11.3%**増加の**174**億円となりました。これは主力の自動車保険における好調な新契約獲得により、保有契約件数が増加して正味収入保険料が増加したことによるものです。

経常利益は、経常収益の増加と事業費率の低下などにより、**91.5%**増加の**9**億円となりました。

この結果、四半期純利益は**111.9%**増加の**6**億円となりました。

ソニー損保 主要業績指標



(単位: 億円)

	FY08.1Q	FY09.1Q	増減率
元受正味保険料	154	172	+11.7%
正味収入保険料	155	173	+11.4%
正味支払保険金	68	80	+16.8%
正味損害率	49.8%	52.0%	2.2pt上昇
正味事業費率	26.1%	24.6%	1.5pt低下
コンバインド・レシオ	75.9%	76.5%	0.6pt上昇
保険引受利益	3	7	+142.2%

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 ※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

	08.6末	09.3末	09.6末	対前年同期末(08.6末)比	
				増減数	増減率
保有契約件数	106万件	115万件	119万件	+13万件	+12.8%

※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

金額は億円、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

16

ソニー損保の主要業績指標は、このスライドに記載の通りですので、後ほどご覧ください。

ソニー損保 種目別保険引受の状況



元受正味保険料

	FY08.1Q	FY09.1Q	増減率
火災	68	71	+5.0%
海上	-	-	-
傷害	1,630	1,708	+ 4.8%
自動車	13,742	15,473	+ 12.6%
自賠責	-	-	-
合計	15,441	17,253	+ 11.7%

正味収入保険料

(単位:百万円)

	FY08.1Q	FY09.1Q	増減率
火災	3	3	▲8.0%
海上	9	2	▲70.4%
傷害	1,720	1,780	+ 3.5%
自動車	13,690	15,415	+ 12.6%
自賠責	105	99	▲5.9%
合計	15,529	17,301	+ 11.4%

正味支払保険金

	FY08.1Q	FY09.1Q	増減率
火災	0	0	▲9.0%
海上	3	0	▲76.8%
傷害	303	348	+ 15.0%
自動車	6,436	7,538	+ 17.1%
自賠責	116	126	+ 8.6%
合計	6,859	8,014	+ 16.8%

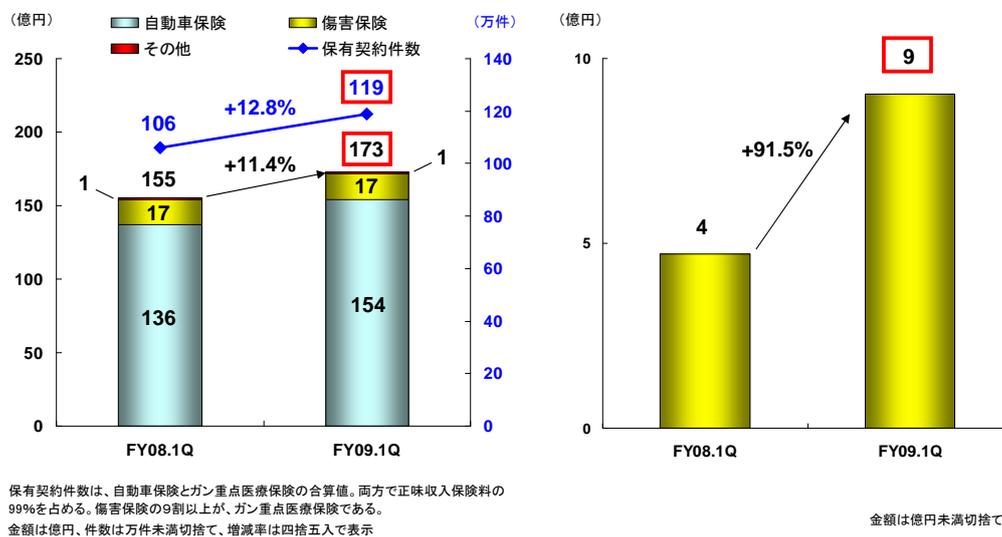
増減率は四捨五入で表示

このスライドでは、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しております。

ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数

経常利益



(左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で前年同期に比べ、12.8%増加して119万件となりました。

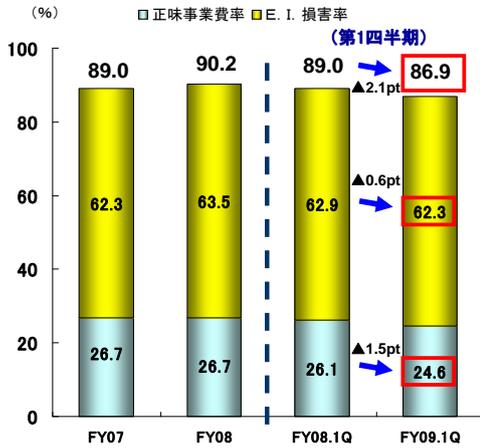
保険引受の状況につきましては、正味収入保険料は前年同期に比べ、11.4%増加して173億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、先程申し上げましたとおり、経常収益の増加と事業費率の低下などにより、91.5%増加して、9億円となりました。

ソニー損保の業績(2)

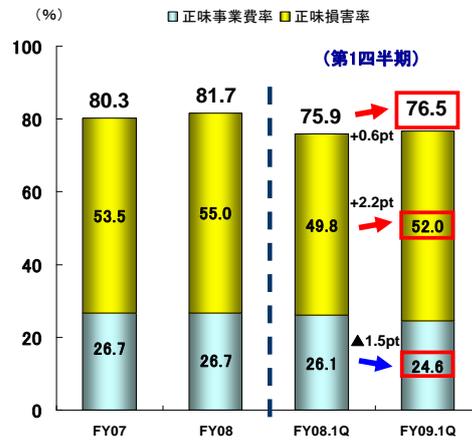
正味事業費率+E.I.損害率



E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料
 ※除く地震保険、自賠責保険

<ご参考>

コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、正味損害率を発生ベースでみたアード・インカード損害率についてご説明します。

当第1四半期のアード・インカード損害率は0.6ポイント低下の62.3%となり、引き続き安定的に推移しました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加もあり、1.5ポイント低下の24.6%となりました。

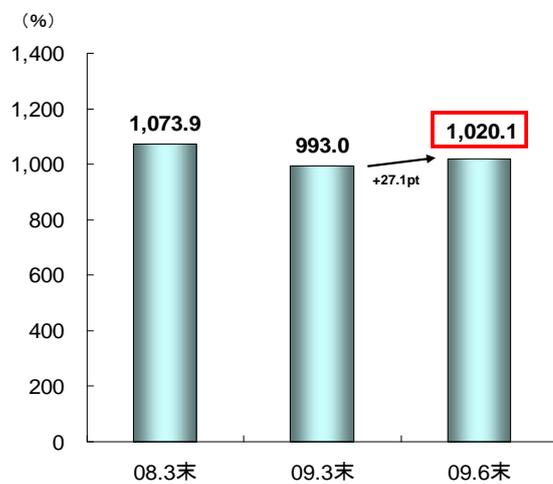
(右側のグラフ)

一方、正味損害率は、2.2ポイント上昇の52.0%となりましたが、これは当第1四半期において保険金支払いが増加したことなどによるもので、支払備金繰入額の減少を反映したアード・インカード損害率とは計算方法の違いがございます。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、0.6ポイント上昇の76.5%となりました。

ソニー損保の業績(3)

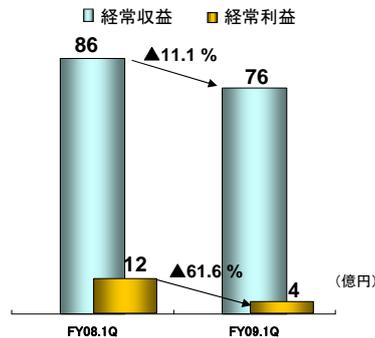
ソルベンシー・マージン比率



※08.3末、09.3末の数値は、保険業法施行規則および大蔵省告示の規定に基づいて算出しており、09.6末については、これらの規定に準じて一部ソニー損保が合理的と判断する方法により算出しています。

ソルベンシー・マージン比率は、2009年3月末に比べ27.1ポイント上昇し1,020.1%と、引き続き健全な水準を維持しています。

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



【ソニー銀行】

- ◆前年同期比 減収減益
- ◆業務粗利益は、資金運用収支が増加したものの、その他業務収支が減少したことにより、前年同期比3億円減少
- ・資金運用収支：貸出金利息の増加、および預金金利の低下による預金利息の減少により21億円増加
- ・役務取引等収支：外国為替証拠金取引の手数料収入増加により0.3億円増加
- ・その他業務収支：金融派生商品損益の減少等により25億円減少
- ◆四半期純利益は、前年同期比4億円減少
- ◆預かり資産残高は前年度末比、200億円増加

(億円)	FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比	
経常収益	86	76	▲9	▲11.1%
業務粗利益	36	32	▲3	▲8.8%
資金運用収支	10	32	+21	+197.6%
役務取引等収支	0	0.3	+0.3	+468.4%
その他業務収支	25	▲0.1	▲25	▲100.7%
営業経費	23	27	+4	+17.2%
経常利益	12	4	▲7	▲61.6%
四半期純利益	7	2	▲4	▲62.7%
業務純益	12	5	▲7	▲56.5%

(億円)	08.6末	09.3末	09.6末	前年度末比	
有価証券残高	6,138	8,231	8,078	▲153	▲1.9%
貸出金残高	3,726	4,770	5,108	+338	+7.1%
預金残高	12,412	13,263	13,309	+45	+0.3%
預かり資産残高	13,467	14,036	14,237	+200	+1.4%
純資産額	413	462	532	+70	+15.2%
その他有価証券評価差額金	▲112	▲96	▲31	+64	—
総資産額	13,124	14,119	14,386	+267	+1.9%

金額は億円未満切捨て(役務取引等収支、その他業務収支を除く)、増減率は四捨五入で表示

21

次にソニー銀行の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー銀行の経常収益は、住宅ローン残高の順調な増加にともない、資金運用収益が増加したものの、その他業務収益が減少したことにより、前年同期に比べ**11.1%減の76億円**となりました。

経常利益は、その他業務収支の減少により業務粗利益が減少したことや、システム関連費用を中心とした営業経費の増加により、**61.6%減少し、4億円**となりました。

業務粗利益は、前年同期に比べ**8.8%減少し、32億円**となりました。

業務粗利益の内訳は、資金運用収支については、貸出金利息が増加した一方で、預金金利の低下により支払い預金利息が減少したことから、増加しました。

役務取引等収支についても、外国為替証拠金取引の手数料収入の増加により、増加しました。

その他業務収支については、主にヘッジ目的で保有している金融派生商品の利益が減少したため、前年同期の**25億円**の利益に対し、**1千万円**の損失となりました。

この結果、四半期純利益は前年同期に比べ、**62.7%減少し2億円**となりました。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(単位:金額は億円、口座数は千件)

	08.6末	09.3末	09.6末	前年度末比	
				増減額・数	増減率
預かり資産残高	13,467	14,036	14,237	+200	+1.4%
預金	12,412	13,263	13,309	+45	+0.3%
円預金	9,886	10,442	10,327	▲115	▲1.1%
外貨預金	2,525	2,821	2,982	+160	+5.7%
投資信託	1,054	772	927	+155	+20.1%
貸出金残高	3,726	4,770	5,108	+338	+7.1%
住宅ローン	3,644	4,683	5,023	+340	+7.3%
その他	81	87	85	▲2	▲2.9%
口座数	64.0万件	72.3万件	73.6万件	+1.2万件	+1.8%
自己資本比率(国内基準)*	10.20%	13.37%	13.41%	+ 0.04pt	

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

※ P26自己資本比率(国内基準)の推移参照

22

ソニー銀行の主要業績指標につきましては、このスライドのとおりでございます。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②



■財務会計ベース

	FY08. 1Q	FY09. 1Q	前年同期比	
業務粗利益 ①	36	32	▲3	▲8.8%
資金運用収支	10	32	+21	+197.6%
役務取引等収支	0	0.3	+0.3	+468.4%
その他業務収支	25	▲0.1	▲25	▲100.7%
営業経費	23	27	+4	+17.2%
経常利益	12	4	▲7	▲61.6%
四半期純利益	7	2	▲4	▲62.7%
業務純益 ②	12	5	▲7	▲56.5%

■<ご参考>社内管理ベース

単位:億円

	FY08. 1Q	FY09. 1Q	前年同期比	
業務粗利益	36	32	▲3	▲8.8%
資金収支 ^{*1}	27	33	+5	+21.3%
手数料等収支 ^{*2}	2	3	+1	+46.3%
その他収支 ^{*3} ③	5	▲4	▲10	▲180.4%
コアベース業務粗利益 ^{*4} ①-③	30	37	+7	+23.4%
コアベース業務純益 ^{*5} ②-③	7	10	+3	+43.6%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

●社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの。

- *1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
- *2 手数料等収支…役務取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
- *3 その他収支…その他業務収支より*1と*2の調整を控除したもの。主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益。

●コアベース

その他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの。

- *4 コアベース業務粗利益…業務粗利益-その他収支
- *5 コアベース業務純益…業務純益-その他収支

23

続いて、右側の表に示します社内管理ベースの損益の状況についてご説明します。

社内管理ベースとは、損益の実態をより適切に表すよう、財務会計に、表の下に記載した内容の調整を加えたものです。

例えば、財務会計で、その他業務収支に計上されている為替スワップ収益等の損益は、社内管理ベースでは資金収支に計上しております。これは、実質的にお客さまの外貨預金に対応する資金運用損益であるため、調整しております。

また、同じ趣旨から、財務会計で、その他業務収支に計上されている外国為替売買益の一部を手数料等収支に計上しております。これは、お客様の外貨預金お預かり時などにおける為替売買益に該当するため、調整しております。

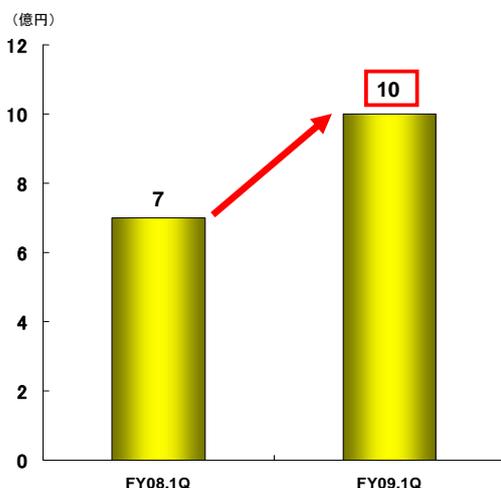
さらに、表の下部にありますコアベース業務粗利益、コアベース業務純益におきましては、債券関係損益およびデリバティブ関連損益等、金融市場の状況に左右される要因を除外することで、銀行の本源的な収益である資金収支および手数料等収支のみを表し、ソニー銀行の基礎的な収益の動向をご理解いただけるものと思います。

このコアベースで改めて第1四半期の実績を見ますと、コアベース業務粗利益**37億円**、コアベース業務純益**10億円**と、いずれにおきましても着実に基礎収益力が強化されていることがお分かりいただけると思います。

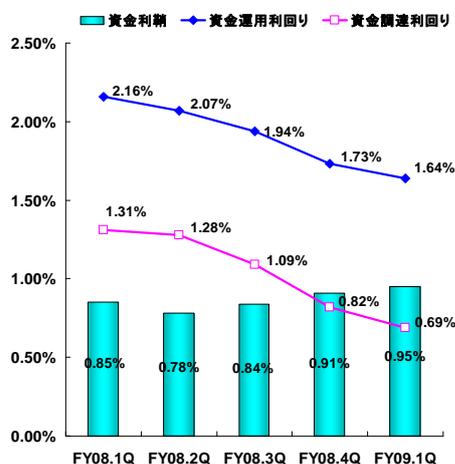
ソニー銀行の業績(1)



<ご参考>コアベース業務純益



<ご参考>資金利鞘の推移(社内管理ベース)



資金利鞘=資金運用利回り - 資金調達利回り
 資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれております。

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左のグラフ)

前のページでご説明申し上げました、コアベースでの収益状況の傾向がご覧頂けます。

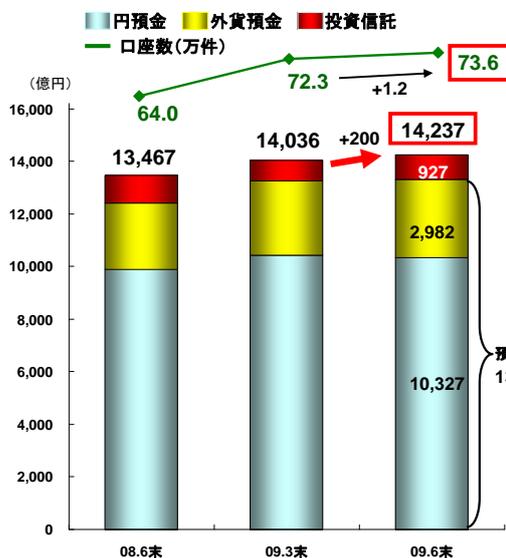
(右のグラフ)

資金運用収支に直結いたします資金利鞘を、社内管理ベースで表したものです。つまり先ほどご説明申し上げましたとおり、実際には資金運用にかかる損益である為替スワップ収益等の損益を含めた上での分析となります。

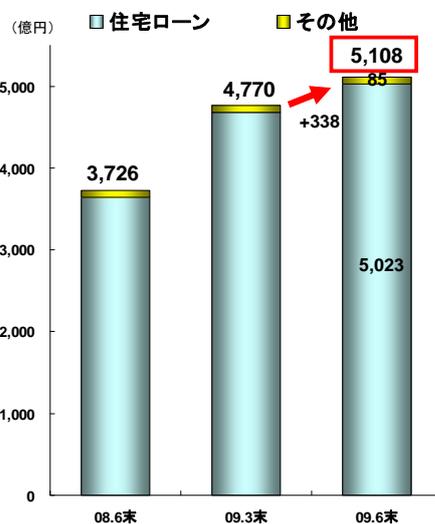
このグラフから、昨年秋以降の世界的な利下げ傾向を受けて資金調達利回りの下落が継続しておりますが、一方の資金運用利回りの低下は相対的に緩やかなものに留まっているため、むしろ、昨年度第2四半期以降、継続的に資金利鞘が改善傾向にあることがわかります。

ソニー銀行の業績(2)

預かり資産残高(預金+投資信託)及び口座数



貸出金残高



金額は億円未満切捨て

次に、業容の推移についてご説明します。

(左側のグラフ)

当四半期末の預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、2009年3月末と比べて200億円増加し、1兆4,237億円となりました。

預金残高は、円預金と外貨預金の合計で、1兆3,309億円となり、2009年3月末と比べて45億円増加しました。

投資信託は、927億円となり、2009年3月末比で155億円増加しました。

また、口座数は1万2千件増加して、73万6千件となりました。

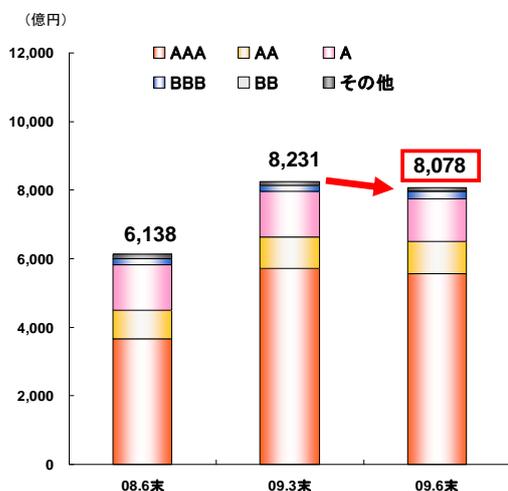
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローン残高の順調な伸びにより、338億円増加し、5,108億円と5,000億円を超えました。

ソニー銀行の業績(3)

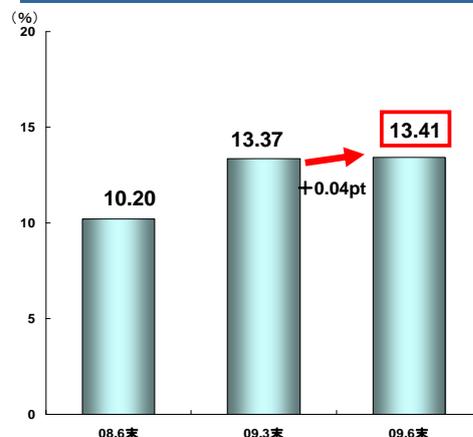


格付別の有価証券残高の推移



金額は億円未満切捨て

自己資本比率(国内基準)の推移



※2008年度に、ソニーフィナンシャルホールディングスを引き受け先とする120億円の増資を実施しております。

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出しています。なお、平成21年3月期第3四半期会計期間より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用しております。

(左側のグラフ)

当四半期末の有価証券残高は、2009年3月末比1.9%減少し8,078億円となりました。

このグラフは、投資有価証券の格付別の分布を表しており、AAA(トリプルA)を中心とした高格付けの債券で運用しております。

(右側のグラフ)

当四半期末の自己資本比率は、2009年3月末と比べ0.04ポイント、上昇して、13.41%となり、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

FY09連結業績予想

(単位: 億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

	FY09(当初) (中間期予想)	FY09(修正) (中間期予想)	FY09(修正なし) (通期予想)	FY08 (参考)	増減率 FY08 vs FY09(通期)
連結経常収益	4,370	4,560	9,000	8,603	+ 4.6%
うち生命保険事業	3,921	4,108	8,087	7,662	+ 5.5%
うち損害保険事業	329	329	653	618	+ 5.5%
うち銀行事業	127	127	261	333	▲ 21.8%
連結経常利益	200	270	460	342	+ 34.3%
うち生命保険事業	198	266	435	325	+ 33.7%
うち損害保険事業	4	4	12	21	▲ 44.9%
うち銀行事業	3	3	13	▲ 5	-
連結当期純利益	100	140	240	307	▲ 21.9%

■生命保険事業

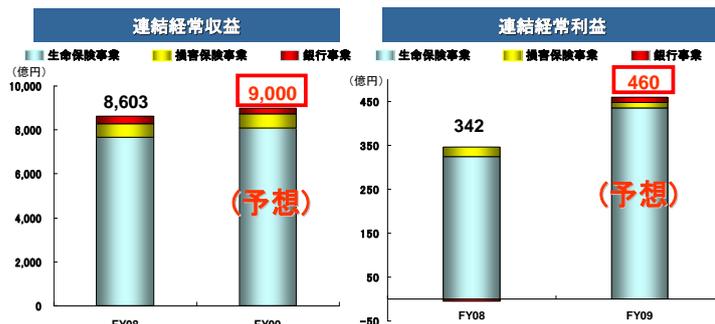
第1四半期において、超長期債の購入を推進してきたことにより利息及び配当金等収入が期初の計画を上回ったこと、比較的良好な金融市場環境の中で残存期間の短い債券を超長期債に入れ替えた際に計上した売却益が計画を上回ったこと、および保険金の支払いが計画を下回って推移したことにより、中間期予想を上方修正した。通期予想については、金融市場環境が依然不透明であることから、据え置きとする。

■損害保険事業

第1四半期の業績は好調に推移したものの、第2四半期以降の契約獲得や損害率を慎重にみていること、事業費の増加を見込むことなどを踏まえ、中間・通期とも予想を据え置く。

■銀行事業

第1四半期の業績は期初の計画をやや上回って推移したものの、現在の金融市場環境を踏まえ、中間・通期とも予想を据え置く。



27

最後に、ソニーフィナンシャルホールディングスの2009年度の連結業績予想について、ご説明いたします。

当第1四半期において生命保険事業の経常収益および経常利益が期初の計画を上回って推移したことから、中間期の業績予想について、期初の予想を7月30日に修正いたしました。

事業別では、生命保険事業において、超長期債の購入を推進して利息及び配当金等収入が期初の計画を上回ったこと、比較的良好な金融市場環境の中で保有有価証券の売却益が計画を上回ったこと、また保険金の支払いが計画を下回ったことから、中間期の予想を上方修正しました。

しかしながら、通期の予想については、金融市場環境が依然不透明であることから、従来予想を据え置きました。

損害保険事業、銀行事業ともに第1四半期の業績は計画をやや上回って推移しましたが、第2四半期以降における費用の増加や、現在の金融市場環境を踏まえ、中間および通期とも従来予想を据え置きました。

以上で、ご説明を終了します。

補足資料

補足資料

ソニー生命の純資産(指標別)の明細



純資産(BS上)・実質純資産・ソルベンシー・マージン

(単位: 億円)

	①純資産(BS上)		②実質純資産		③ソルベンシー・マージン		備考
	09.3末	09.6末	09.3末	09.6末	09.3末	09.6末	
株主資本合計	1,381	1,430	1,381	1,430	1,311	1,430	
その他有価証券評価差額金	40	172	40	172	-	-	
その他有価証券の含み損益	-	-	-	-	176	347	③税引前の90%
土地再評価差額金	▲14	▲14	▲14	▲14	-	-	
価格変動準備金	-	-	36	50	36	50	
危険準備金	-	-	454	462	454	462	
一般貸倒引当金	-	-	-	-	0	0	
土地の含み損益	-	-	65	65	48	48	②税引前(再評価後) ③税引前(再評価前)の85%
全期テメル式責任準備金 相当超過額	-	-	3,022	3,055	3,022	3,055	
配当準備金未割当部分	-	-	3	3	3	3	
将来利益	-	-	-	-	-	-	
税効果相当額	-	-	-	-	257	325	
満期保有債券の含み損益	-	-	267	24	-	-	②税引前
その他有価証券に係る 繰延税金負債	-	-	69	127	-	-	
合計	1,407	1,588	5,326	5,377	5,313	5,724	

金額は億円未満切捨て

29

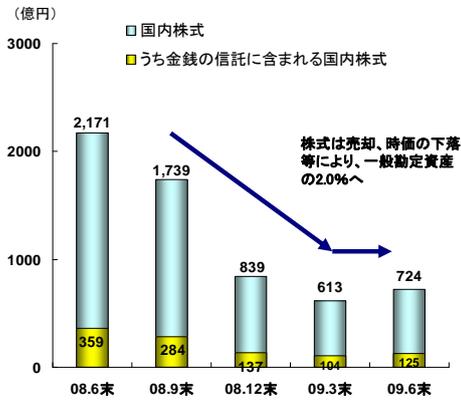
(ソニー生命の純資産(指標別)の明細)

ソニー生命のポートフォリオの変化(1)



■FY08下半期より、エクイティ性資産(株式および転換社債(CB))を圧縮

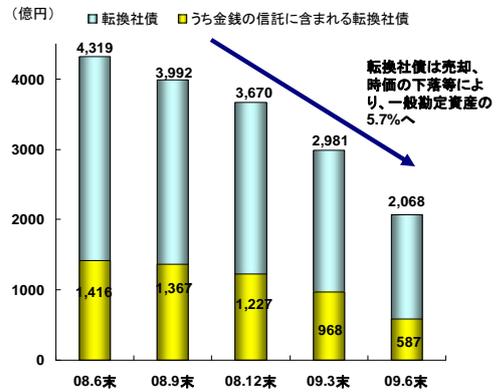
一般勘定資産における株式の残高



	FY08.1Q	FY08.2Q	FY08.3Q	FY08.4Q	FY09.1Q
減損	4	27	137	6	—
うち金銭の信託分	0	8	33	1	—

金額は億円未満切捨て。減損額は、各四半期(3ヶ月)単位。

一般勘定資産における転換社債(CB)の残高



	FY08.1Q	FY08.2Q	FY08.3Q	FY08.4Q	FY09.1Q
減損	3	2	50	201	—
うち金銭の信託分	1	—	16	63	—

金額は億円未満切捨て。減損額は、各四半期(3ヶ月)単位。

(ソニー生命のポートフォリオ変化(1))

ソニー生命のポートフォリオの変化(2)



有価証券の時価情報(一般勘定)

■過去1年間で、その他有価証券の中のエクイティ性資産(株式および転換社債(CB))は圧縮。満期保有目的の超長期債を積み上げ。

■債券のDurationは長期化: 8.7年(08.3末) ⇒ 13.6年(09.3末) ⇒ **14.7年(09.6末)**

■売買目的有価証券の残高も減少。

●売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの(金銭の信託を含む)

(単位: 億円)

区 分	08.3末			08.6末			09.3末			09.6末		
	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益
満期保有目的の債券	-	-	-	137	140	2	13,990	14,257	267	16,413	16,437	24
その他有価証券	27,249	28,528	1,278	28,060	28,959	898	16,755	16,997	242	14,722	15,168	445
公社債	23,799	24,634	834	24,625	24,912	286	15,469	15,739	269	13,529	13,872	342
(うち転換社債)	3,809	3,902	92	3,873	3,958	84	2,977	2,765	▲ 212	2,104	2,023	▲ 80
株式	1,529	2,038	508	1,499	2,131	632	569	583	14	569	684	115
外国証券	1,849	1,754	▲ 95	1,863	1,805	▲ 58	642	605	▲ 36	549	528	▲ 20
その他の証券	71	101	30	71	109	38	74	68	▲ 5	74	83	9
合 計	27,249	28,528	1,278	28,197	29,099	901	30,745	31,254	509	31,135	31,605	470

金額は億円未満切捨て

(ソニー生命のポートフォリオ変化(2))

その他トピックス

ソニー銀行におけるソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

■住宅ローン新規融資実行金額の34%

※銀行代理業務取り扱い開始：2008年1月



ソニー損保におけるソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取り扱い開始：2001年5月



<2009年度第1四半期以降の主な取り組み>

2009年4月 2日	ソニー生命、『がん入院保険』『先進医療特約』『入院時手術給付特約』の販売開始
2009年4月10日	SFH、社債発行にかかる発行登録を実施
2009年4月20日	ソニー銀行、パナホーム株式会社との提携住宅ローンの取り扱いを開始
2009年5月11日	ソニー損保、ウェブサイトで海外旅行保険の販売を開始
2009年6月 1日	ソニー銀行、2009年夏の特別企画を開始
2009年6月 1日	ソニー損保、セコム損保の「自由診療保険メディコム」の販売を開始
2009年7月 1日	ソニー損保、自動車保険のロードサービスで携帯電話のGPS位置情報サービス機能の利用を開始
2009年7月 1日	ソニー生命、台北駐在員事務所を開設
2009年7月23日	ソニー生命、特定非営利活動法人 遺言・相続リーガルネットワークとの業務提携

その他トピックス



お問い合わせ先:

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部
TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部
TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当
TEL:03-6832-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、一般および報道関係からの方からの
お問合せで、個別各社の事業に関することは各社広報窓口までお願いいたします

お問い合わせ先